青森田中学園報

こぶしの花

Kobushi no Hana

青森中央学院大学
青森中央短期大学
青森中央経理専門学校
青森中央文化専門学校
認定こども園
青森中央短期大学附属第一幼稚園
認定こども園
青森中央短期大学附属第二幼稚園
認定こども園
青森中央短期大学附属第三幼稚園
幼保連携型認定こども園
中央文化保育園
幼保連携型認定こども園
浦町保育園

撮影：青森中央学院大学経営法学部15期生　NGUYEN VO PHUONG LINH

特集：平成28年度就職状況

vol.98

Kobushi no Hana
Aug, 2017

目　次

特集：平成28年度就職状況 ―― 2
入学式・卒業式 ―― 6
青森中央学院大学 ―― 8
・森田ゼミ懸賞論文佳作受賞
・青森明の星短期大学との連携協定締結
・東北町と連携協定締結
・全日本大学ボウリング選手権大会男子優勝
・「高校生元気ふるさとアイデア選挙」サポート
・経営法学部教員書籍紹介
・久留米大学学生との交流
・私の一冊
・国際交流センターより
・保健師教育課程実習報告会を終えて
・飛翔式を終えて
・まちなかキャンパスミニ公開講座
・インターナショナル ジョイントカンファレンス
青森中央短期大学 ―― 12
・食物栄養学科入学者発表会
・オリジナル食育ソング＆ダンス完成
・授業で学びの実践を体験
・高校生対象公開講座
・ピオトープの活用
・ねぶた祭りへ向けて
・Instagram の運用スタート
・中短♪音れくサークル
附属第一・第二・第三幼稚園
浦町保育園　中央文化保育園 ―― 14
・行事アルバム
・先生達活躍しています
・読み聞かせたい一冊の絵本
青森中央文化専門学校
青森中央経理専門学校 ―― 16
・ユニバーサルファッションショー
・Bunka Fashion Live に携わって
・文化専門学校研修旅行
・経理専門学校研修旅行
・経理発信情報
・ファッション通信
・おススメ図書
・卒業生ピックアップ
新教職員紹介 ―― 18
学園共通 ―― 20

特集　平成28年度就職状況

平成28年度のキャリア活動の振り返り

キャリア支援センター長　塩谷 未知

本学園は２つの専門学校、短期大学、学院大学には経営法学部と看護学部、そして大学院より構成されています。専門分野が多岐にわたると同時に、学園に集う学生たちの国籍、出身地、価値観、意識、そして行動スタイルは多種多様です。

多種多様な学生が、世の中の多種多様な企業や団体などへの就職活動に果敢に挑戦しています（看護学部は平成 29 年度に第１期生として、初めて卒業生を社会に送り出します）。

バブル経済崩壊後の就職氷河期や金融危機を乗り越え、「買い手市場」から「売り手市場」に大きく変化していると世の中では喧伝されています。しかし一人ひとりの学生の立場では、必ずしも「売り手市場」ではありません。

また、ブラック企業、過労死、働き方改革など就職を取り巻く情勢は複雑さを増しています。さらに経団連の就職活動ガイドラインも毎年のように変更があり、学生だけでなく採用する企業サイドも戸惑っています。

このような就職情勢の中で、平成 28 年度卒業生は学内外で身につけた知識や経験を活かしタフな就職活動を行いました。その結果、就職内定率は専門学校 100%、短大 99%、そして大学が 97%という成果に結びつきました。学生自身の日々の努力の積み上げにより、高い就職内定率を実現しています。

地域の企業の方や関係者、本学園卒業生の活躍、指導教員、キャリア支援センターのスタッフや関係者の皆様の温かいご支援とご指導に心から感謝する次第です。

学内企業就職セミナー

平成 29 年度の就職活動のキックオフとなる第 16 回本学園学内企業セミナーは、県内外の数多くの企業や団体のご支援を得て３月１日に開催されました。

セミナー開始とともに就職活動キックオフという雰囲気になり、学生はお互いに情報交換をするなど相互に刺激がありました。また、各企業ブースでは学生が企業の方の説明を熱心に聞いていました。

参加企業数と参加学生数のバランスがよく、「多くの学生さんにブースに来ていただいた」と企業の方にも好評でした。学生にとっても、これまで馴染みのない業界や企業に対し関心や興味を持つよい機会になりました。

セミナーの準備や片づけ含めて振り返ると、本学園に対する企業の皆様の温かい心配り、教職員の皆様のご支援に心より感謝いたします。

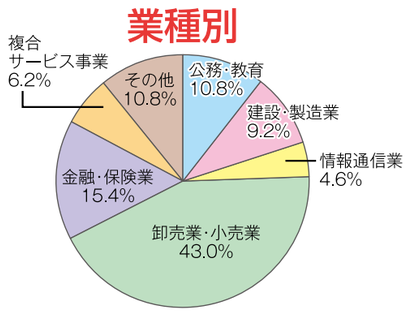
参加学生が就職活動をスムーズに開始でき、貴重な情報とチャンスに出合った学内企業セミナーとなったことを改めてご報告しお礼申し上げます。　（キャリア支援センター長　塩谷 未知）

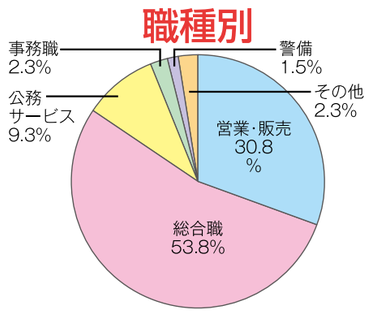
青森中央学院大学の状況

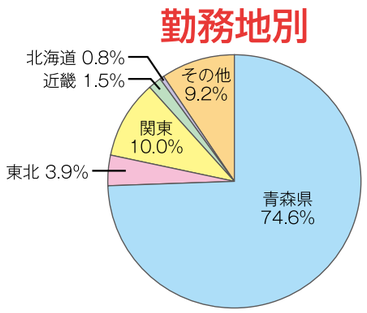
経団連の就職活動ガイドラインは毎年のように変更があり、学生のみならず採用する企業にも戸惑いがあります。今春の卒業生は平成 28 年３月１日が就職活動解禁、試験面接開始が６月と企業の選考期間が短い日程でした（ちなみに平成 29 年度は平成 28 年度と同じスケジュールです）。

就職活動日程の変更は学生のみならず、採用側にも混乱を引き起こしています。就職活動解禁前のインターシップが盛んになり、また、内々定者の辞退と再募集などが普通になっています。その結果、就職活動の長期化が進み、卒業式後の３月末まで就職活動はずっと続きました。

今春の本学部卒業生の就職内定率は 97%となりました。地域の生活や事業を支える県内の多様な企業や団体、そして公務員へと活動の場がますます広くなっています。また、過去に採用実績のない業種や職種に果敢に挑戦し内定を得る学生も多数おりました。







大きな経済変化に対応するために、世の中の企業は多様な価値観をもつ社員を求めて採用活動を行っています。新卒での就職活動というチャンスはたった１回です。この機会に多様な人や企業に出会うことで、肉体的精神的に成長することが期待されます。

学業、学外活動そして就職活動、「あれもこれも」欲張ってやり、10 年後に「あの時やっていてよかった」と思えるように行動しましょう。

（キャリア支援委員会長　塩谷 未知）

就職活動体験記

沢田 慎也 さん　経営法学部
海上自衛隊

海上自衛隊幹部候補生として四月より勤務しています。自衛隊は諸外国に PKO 派遣や特殊災害支援など、世界平和に貢献していますが、海上自衛隊は更にその機会が多くなります。国際的な場で働きたいという私の思いとマッチし、入隊を決意しました。就活の道のりは大学入学時まで遡ります。アルバイト等はあまりしなかった分、学友会活動やサークル、また大学が紹介する課外活動やボランティアにとにかく精力的に取り組み、経験値が豊富になりました。その分、就活でも自信を持って臨めた上に、何より人生の糧になったと実感します。皆さんも短く貴重な大学時代に様々な経験をしてほしいです。

鳴海 しづの さん　経営法学部
青森県商工会連合会

私は、春から六ケ所村商工会で働かせて頂くことになりました。

これから就職活動をする皆さんには、就職活動は、自分との戦いだということを忘れて欲しくありません。私自身、就職活動を終えたのは、４年生が終わる２月末でした。当然周りの友人たちの殆どは就活を終え、楽しい時間を過ごしていたかと思います。実際、とても焦りました。内定を貰ってはいたものの、自分が納得するまで就活を続けるか、それともこのまま終わるのか。私の場合、ゼミの先生や、キャリア支援センターの方々、友人などに相談をすることで自分の考えを固められたと思っています。

周りがこうだからとか、親がこう言ったから、など、周囲に惑わされることなく、自分の強い意志を持って自分を信じて就活に挑んでほしいです。

青森中央短期大学の状況

平成 28 年度の就職活動を一言で振り返れば、学科の基幹となる資格や受講内容を活かした専門職への就職・進学、さらに青森県内を勤務地とした就職を着実に伸ばしたことが挙げられます。

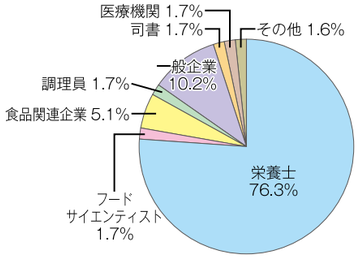
食物栄養学科は就職率 98.4％を達成しました。内訳として、栄養士の就職が昨年度から 10.7 ポイント上昇し 76.3％に達しました。この数値が専門職全体（栄養士と食品関連企業）の就職率をそのまま押上げ、昨年度の 74.6％から 10.2 ポイント増の 84.8％を実現しました。

幼児保育学科は就職率 98.8％を達成しました。専門職全体（保育士、幼稚園教諭、保育教諭）は 80.1％であり、安定して毎年 80％前後の高水準を維持していることに加え、専攻科福祉専攻への進学者の増加、さらに公務員の正規採用や四年制大学（保健福祉課程）への編入学があるなど、多様な進路が見られます。専攻科福祉専攻は就職率 100％を順調に維持しています。

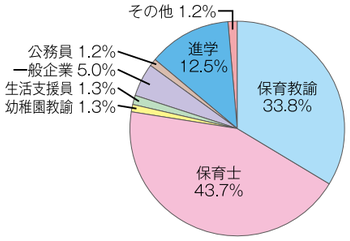
また、地元定着率ですが、青森県内を勤務地とした就職がすべての学科・専攻科において 60％台であり、本学全体としても 10.5 ポイント増の 65.2％を達成しました。ただし、一昨年度までの数値には、比較的関東圏への就職が多かった看護学科が含まれていたこともあるため、昨年度の数値上昇を単純に喜んではいられません。人口流出が続く青森県にあって、今後も人材を育てるだけでなく、青森県に定着させることで地域とともに歩む短期大学として、今年度も学生へのキャリア支援をさらに続けて参ります。

（キャリア支援委員長　宮田 篤）

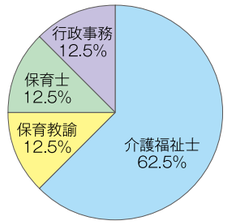
食物栄養学科



幼児保育学科



専攻科福祉専攻



就職活動体験記

唐牛 彩倭子 さん　食物栄養学科
城ヶ倉観光(配属先:青森敬仁会病院)

私は健康を考慮した、美味しい食事を作る栄養士になりたいと考えていました。７月頃から本格的に就職活動を開始しましたが、その頃は市内の求人はあまり出ておらず、周囲が内定をもらい始めることにとても焦りを感じていました。８月に入り城ヶ倉観光の求人があり、キャリア支援センターの先生に相談に乗って頂き、また筆記試験対策として給食管理の基本的な計算や食品衛生学の復習を夏休み中に行いました。面接では緊張しましたが、『落ち着いて話せば大丈夫。』と言ってくれた友人の言葉を思い出し、自分の言葉で相手に気持ちを伝え、内定を頂きました。後輩の皆さんも、就職活動は大変ですが早めに目標に向かって準備を進めていくことが大切だと思います。

村田 和 さん　幼児保育学科
認定こども園青森幼稚園

私は幼児教育に興味があり、この短期大学に入学し、幼児保育学科で２年間様々なことを学びました。１年生の頃は、「就職なんてずっと先の話。」と思っていました。しかし２年生になり、早い人は夏休み前には就職が決まっており、それを聞いて焦りを感じ、どこの園が良いのかホームページを見たり、求人情報を調べたりしましたが、ピンと来るものがなく途方に暮れていたところ、先生に声を掛けていただきました。そのおかげで、９月には内定を頂くことができました。早めに就職活動を終えたことで、ミュージカルや特別研究、実習に集中して臨むことができました。これからは、関わってくださった様々な方の期待に応えられるように、素敵な先生になりたいと思います。

青森中央経理専門学校・青森中央文化専門学校の状況

専門学校全体として 100％の内定を達成しました。昨年度も 100％で２年連続となりました。目標としていた「全員内定」また、「専門職への就職」が概ね達成できたと感じています。要因としては求人倍率の向上等外的な要因はありますが、１年次からの授業「キャリアデザイン」においてキャリア支援センターとの連携で、少人数のメリットを活かし体系的なカリキュラムを構築し意識涵養や各種プログラムの成果によるところだと考えています。１年次は「経理」「文化」合同で基礎的な授業、２年次はそれぞれの「業界」を意識した授業を展開しております。

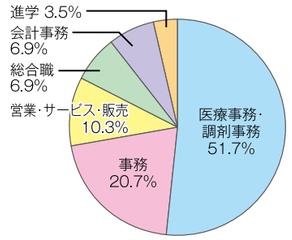
職業実践専門課程が２年目となった昨年は、連携企業様にも引き続き採用して頂き、学生や保護者にも職業教育期間としての認識が増したことと思います。

「専門職」という観点からみると、税理士事務所・医療事務・調剤事務・新幹線グランクラスアテンダント・パタンナー・ファッションアドバイザー等「経理」「文化」それぞれのコース・専攻に即した就職先に数多く内定を頂きました。

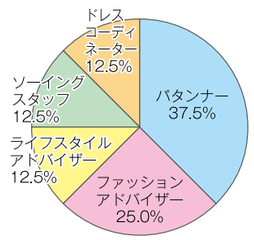
今年度も、職場訪問等企業との連携を継続しながら、引き続き全員内定＋専門分野への就職率アップを目標に支援していきたいと考えています。

（キャリア支援担当　鈴木 伸吾）

青森中央経理専門学校



青森中央文化専門学校



就職活動体験記

秋元 美波 さん　青森中央経理専門学校
ランドマーク税理士法人（会計業務）

私は、事務職での就職と資格取得をめざし、青森中央経理専門学校の経理事務コースに入学しました。

特に会計の分野に興味があり、簿記やファイナンシャルプランナーの資格取得に力を入れました。

就職活動は、企業によってエントリーの時期が異なるので、自分の志望とマッチングする企業を見逃さないよう早めにスタートしました。２社から内定をいただくことができ、最終的に自分が一番納得できる企業へ就職をすることができたのは、難易度の高い資格を取得できたことも大きかったと思います。

何事も計画的に実行することが大事だと思うので、これからも実践し、たくさんのことを吸収してキャリアアップに繋げていきたいと思います。

田邊 隼 さん　青森中央文化専門学校
聖林公司 OKURA(ファッションアドバイザー)

私は、憧れのブランドにファッションアドバイザーで就職するため、青森中央文化専門学校のファッション販売専攻に入学しました。

入学当初は人見知りでしたが、今は接客が楽しいと感じています。

就職活動では、就職を考えている企業の店舗に足を運び、求人情報などを直接聞いて挑みました。第一志望の企業が就職活動一社目でしたが、履歴書の添削や面接練習など先生方の支えもあり、ストレートで内定をいただくことができました。

二次試験では、実際に店頭に立ち接客をしましたが、授業でのロールプレイングや店舗実習の経験を活かすことができました。

外国人のお客様も多いので、これから語学も身につけ、早く一人前になれるよう頑張ります。

特集

平成29年度入学式

新入生抱負

北田 雄介 さん　青森中央学院大学

私が青森中央学院大学へ入学しようと決意するきっかけとなったのは、就職率の高さ、経営法学部という全国でも珍しい学部に魅力を感じたためだ。

また、私はもともと経営学に興味があり、学んでみたいと考えていた。それに加え、法学も学べるのは自分のためになると考え青森中央学院大学を志望し、入学した。将来就職する際役立つ、民法や商法などの知識を身に付けられるよう勉学に励みたい。

本学に対する期待は、就職率が高く、就活に対するサポートが充実しているため、早い段階で就職先を見つけられるようサポートしてほしいということだ。

また、新たな友人を作るよう心がけ、コミュニケーション能力の向上を図りたい。そして、自分と考え方の違う人々から学べるところを学び、見聞を広めたい。

佐々木 優香 さん　青森中央短期大学

私は、健康や栄養に関する知識と技術を身につけて、相手にあわせた食事を提供できる栄養士になりたいと思い、青森中央短期大学に入学しました。元々料理をすることが好きだったので、調理の幅をさらに広げ、専門的な知識を広げられることにも魅力を感じました。

入学して数ヶ月が経ちます。調理実習や献立作成など、最初は分からないことが多かったですが、先生から様々なアドバイスをいただき、自分に何が足りないのか、何ができないのか理解することができるようになってきました。

大学生活に慣れるまで不安が大きかったですが、仲間と毎日を過ごしているうちに少しずつ慣れてきたので、これからは楽しく生活できると思います。

自分の思い描く栄養士を目指して、これから２年間頑張りたいと思います。

松沢 歩美 さん　青森中央文化専門学校

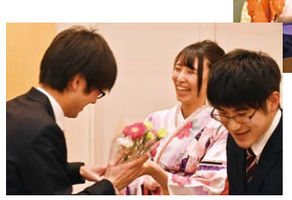
私は、オープンキャンパスに参加した際に、校内の見学や過去のファッションショーの映像を観たり、先生方や先輩方に学校の生活を聞かせていただいた中で、一人一人が自分を自由に表現できる青森中央文化専門学校へ入学したいと思いました。これから２年間の学校生活の中で、沢山の試練や大きな壁にぶつかることもあると思いますが、入学したこの日の事を思い出し、諦めずに乗り越えていきたいと思います。そして共に入学した仲間と協力し、励まし支え合いながら、新しい事にどんどん挑戦し、日々精進していきたいと思います。

新たな旅立ち～平成28年度卒業・卒園～

青森中央学院大学

３月17日に挙行された学位記授与式では、花田学長から卒業生一人ひとりに学位記が授与された。学長式辞では「多くの矛盾と困難に直面した時、本学で学んだ専門教育と問題解決型の実践的教育が大いに役立つものと確信しています。それでも心の負担に耐えかねた時は、『愛あれ・知恵あれ・真実あれ』の建学の精神に立ち返ってください。学び舎での熱い思いがきっと心の支えになってくれるでしょう。」と、祝いの言葉が述べられた。

式後には、卒業生が後輩から祝福を受けたり、友人らと記念撮影をするなど、別れを惜しむ光景が見られた。



青森中央短期大学

３月15日挙行の学位記・修了証書授与式において、卒業生は社会への新たな１歩を踏み出した。式では久保学長が「本学で備わった『生涯にわたって学び続ける姿勢、主体的に考える姿勢』を駆使し、社会の変化や要請を的確に感じ取り、研鑽を怠らず、それに対応できる専門職であり続けることを期待しております」と、卒業生を激励した。

式後に行われた卒業祝賀会では、これまでの思い出を一緒に振り返り、最後まで楽しい時間を過ごす様子が見られた。

青森中央文化専門学校・青森中央経理専門学校

３月24日に卒業証書授与式を挙行し、経理情報科、トータルファッション科の卒業生へ石田校長、久保校長から一人ひとりに卒業証書が授与された。

卒業証書授与式の後は、祝賀会が開かれ、２年間の思い出を振り返ったスライドショーの上映や卒業生から先生方へ花束贈呈などが行われ、楽しい時間を過ごした。

附属幼稚園・保育園

附属幼稚園、保育園では、それぞれの園で卒園式が行われました。

園長先生から卒園証書を受け取り、小学校で頑張りたいことを発表した卒園児たち。立派に成長した姿に、先生方や保護者も感慨がひとしおの式典となりました。

青森中央学院大学

青森中央学院大学

森田ゼミ「平成 28 年度青森学術文化振興財団懸賞論文」佳作受賞

森田ゼミでは、「青森県における６次産業化の可能性」をテーマに提言論文を作成しました。このテーマにした理由は、６次産業化は、農業などの一次産業が盛んな青森県の利点を存分に生かすことができる取り組みだと考えたからです。

作成にあたっては、北東北３県における６次産業の取り組みを比較し、青森県の特色を捉えるとともに、田子町ガーリックセンターでのヒアリング調査により青森県で実際に取り組まれている６次産業化の現状と問題点を整理しました。これらの調査に力を入れることで、論文により強い説得力を持たせることができたと思います。

データを読み取り、理由や根拠を明確に示しながら結論を導き出すという作業は想像以上に大変で苦労しましたが、妥協せずに取り組んだことで満足できる論文を完成させることが出来ました。また、私たちの論文が唯一の受賞であったことは自信にもなりました。

（経営法学部 16 期生
大高 早映子）

東北町と連携協定締結

２月６日、上北郡東北町（斗賀壽一町長（当時））と青森中央学院大学は、相互の人的資源・交流活用を図り、地域の発展に資するために包括的な連携協定を締結した。

東北町と本学は以前から国際グリーンツーリズムの受け入れ、本学教員の町づくり委員の就任等で交流を行ってきている。また本学卒業生が町役場で活躍していることもあり、連携協定を締結し、より一層の交流を図ることとなった。

協定にあたって、斗賀町長から、「将来を見通したまちづくりを進めていくために、大学の若い力に協力してほしい。」との抱負が語られた。また花田学長からは、本学のネットワークを活用し、国内外に東北町の情報を発信して行きたいとの挨拶があった。

今後、東北町での学生・教職員のフィールドワークや出前講座、青森中央学院大学での東北町の小中高生の体験授業の受け入れ等に取り組んでいく予定である。

青森明の星短期大学との連携協定締結

３月 21 日、学校法人明の星学園青森明の星短期大学（石田一成学長）と青森中央学院大学、青森中央短期大学が、大学間包括連携協定を締結した。青森明の星短期大学と本学園は、ともに創設以来青森市の地域に根差した高等教育機関として学生、教職員等の交流により様々な地域活性化につながる連携活動を行ってきた。

今回の大学間包括連携協定の締結は、同じ青森市内にある高等教育機関として、お互いの特性を活かしながら、より一層の連携・交流を通じた教育・研究活動および地域社会活動により、相互の教育・研究の発展、教育内容の充実、人材の育成及び地域社会へ貢献することを目的とするものである。今後単位互換、共同学修などによる学生交流、教職員の共同研究、共同 IR、生涯学習講座の共同開催等を行っていく。

第54回全日本大学ボウリング選手権大会・男子団体初優勝!!

私たちは、この大会で優勝することを目標に日々努力してきました。そして、とうとう初優勝を成し遂げました。この初優勝に至るまで、過去あと一歩のところで、優勝を逃してきました。その敗因となったのが、チーム力です。五人チームというチーム戦の中で、チームの士気を盛り上げるために声掛けなどを行うと、勢いをつけることができます。私たちには、過去そのチーム力が足りなかったことを反省し、昨年度は四年生を中心にチーム力を磨いてきました。四年生がうまく部員をまとめあげることに成功したおかげで、優勝できたのだと思います。今年は四年生が卒業してしまったので、自分たちで引っ張っていかなければなりません。正直、今の実力などでは、二連覇は厳しいですが、ベストを尽くして、また良い報告ができるように頑張ります。応援よろしくお願いいたします。（ボウリング部
石川 新）

むつ市「高校生元気ふるさとアイデア選挙」サポート

むつ市が主催する「高校生元気ふるさとアイデア選挙」において、経営法学部佐藤淳ゼミと学生団体「選挙へ GO!!」がサポートを行った。「高校生元気ふるさとアイデア選挙」は、むつ市内の高校生から、人口減少や少子高齢化対策、観光、まちのにぎわいづくりなどに関するアイデアを提案してもらい、高校生による投票やプレゼンテーションなどを経て最優秀賞を決定する主権者教育の一環の事業である。

佐藤ゼミは、田名部高校、大湊高校、むつ工業高校において、選挙の大切さ、投票の重要性を高校生に分かりやすく解説した。

また、学生団体「選挙へ GO!!」に所属する本学経営法学部の福井崇弘君と相馬一斗君は、むつ工業高校で行われたアイデア選挙において、選挙に関する知識を楽しく学ぶ「高校生選挙ウルトラクイズ」の進行を務めた。

加藤澄教授『機能文法による日本語モダリティ研究』（共著）くろしお出版

経営法学部加藤澄教授が、前号で紹介の明石書店からの『サイコセラピー臨床言語論』（単著）に続いて、共著作を出版された。くろしお出版は、ひつじ書房と並んで、言語学の老舗出版社である。

共著者４名とともに、加藤教授はシステミスト（Systemic Functional Linguistics 選択体系機能言語学派）である。SFL（略称）は、複雑かつ難解とされるその理論体系のために、日本ではマイナーであるが、欧米では高い評価を確立している。本書は、龍谷大学国際社会文化研究所よりグラントを得て、著者５名が５年間にわたり、日本では初めて SFL を日本語モダリティに適用して理論構築を行った画期的な書である。

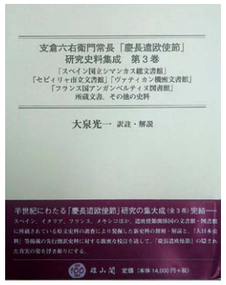
大泉光一教授『支倉六右衛門常長「慶長遣欧使節」研究資料集成　第3巻』（雄山閣）

大泉光一教授が表記の著書を上梓された。支倉の足跡を追って、スペイン、ヴァティカン・イタリア・メキシコ、フランス・英国での膨大な関係原文書の博捜作業と、渉猟された古文書の解読作業に半世紀以上の歳月をかけられてきている。その妥協を許さぬ研究姿勢は、古文書解読のために不可欠な古典ロマンス語の習得に端的に窺える。古典ロマンス語は超級の難解さで知られるが、教授は多忙なスケジュールの合間を縫って、習得に 30 年の歳月をかけられている。古典ラテン語に関しては、すでに通じておられたが、それでも手書きの書翰の解読作業には難儀したと述べられている。恐らく日本では、両言語の古文書解読において教授に並ぶ研究者はほとんどみあたらないであろう。

一級資料に徹底的に忠実に沿うことで結実したのが、本書であり、その他、膨大な数の著書・論文である。これらは疑いなく後世に残る遺産となり、後続研究に果たす貢献は計り知れないものとなろう。

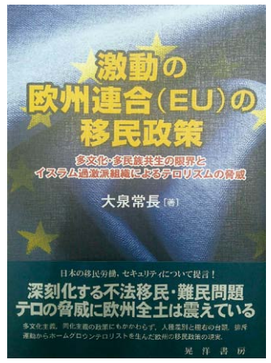
同じ研究者として、教授のこうした姿勢を鏡としたいと努める日々である。

（「こぶしの花」編集長：加藤 澄）



大泉常長准教授『激動の欧州連合（EU）の移民政策』（晃洋書房）

昨今、イスラム原理主義過激派組織「イスラム国（IS）」が関与したと見られるテロ攻撃が後を絶たず、テロの脅威は中東地域や欧州全土からアジア地域を含む世界各地へと広がっている。イスラム国が好む戦略は、「ホームグロウンテロリスト」が引き起こす「ローンウルフ（一匹狼）型」テロリズムであるが、この種のテロ行為の発生は、前兆もなく、突発的に発生する傾向にあることから、各国の警察当局もその対応に苦戦を強いられている。これらテロリストが次々と生まれる土壌には、欧州移民政策の問題がある。本書は、欧州における移民破綻問題の実態を明らかにし、活発化する極右勢力による移民排斥運動や人種差別問題などで激動する欧州連合の現在と過去を考察することで、日本の移民労働、日本国内の対テロ対策セキュリティのあり方について提言している。



久留米大学学生との交流

昨年度大学間連結協定を締結した、久留米大学（福岡県久留米市）と青森中央学院大学との学生交流事業の一環として、久留米大学の学生８名を本学で受け入れ、本学の学生の案内により冬の青森を体験してもらった。

太宰治の生家「斜陽館」、立佞武多の館、津軽ねぷた村、青森県立美術館等の見学、津軽鉄道ストーブ列車、「のっけ丼」体験、本学学生の指導によるスキー体験、津軽凧絵作成、本学 OB の指導によるカーリング体験、浅虫地区でのスノーシュー体験等６泊７日の中で、様々な体験メニューを行い、雪の無い九州在住の若者の目から見た青森県観光の魅力について意見交換を行った。

なお、この交流事業は久留米大学では「地域連携特講」として、本学では「地域探求アクト」のアクティブラーニングの授業の一環として実施されていて、来年度は本学学生の福岡県でのフィールドワークを計画している。

私の一冊

青森中央学院大学　花田 勝美 学長

『モナ・リザは高脂血症だったー肖像画29枚のカルテ』

篠田達明著　（新潮社 ,2003）

現代に残された有名人の肖像画から、その人の持つ病気を推測するという本です。まずは、誰でも知っている貴婦人「モナ・リザ」の絵ですが、鼻の根元と左目の間に小さな腫瘍があることを知っていますか。その診断を巡って、多くの論争があるのです。わたしも、ルーブル美術館を訪れた際、二日間「モナ・リザ」に通いつめ、これは「黄色腫」だと確信しました。筆者も私も診断は同意見ですが、さらに、この腫瘍が「脂肪細胞」からなることから、筆者は大胆にも「高脂血症」だと決めつけ、タイトルにまでしてしまっているというものです。その他、ボッティチェリの「ビーナスの誕生」の絵にはビーナスの外反母趾が、狩野光信の「豊臣秀吉」の絵では秀吉の右手に多指症（指が６本ある）の像が、レンブラントによる旧約聖書の美女「バテシバ」ではなんと乳がんの症状がはっきりと見て取れるというのです。名画や肖像画には意外な秘密があります。ぜひ探して見てください。

国際交流センターより“国際交流で県内貢献”

グローバル人材等の育成や県産品の海外輸出等が進められるなか、本学の外国人留学生と卒業生が積極的に高校や行政の事業に協力しています。

高校との連携

【青森南高校外国語科】

10 月３日、アメリカで予定している英語による「日本文化紹介プレゼンテーション」を留学生 (タイ・ベトナム・マレーシア) が見て、外国人の視点でアドバイスしました。

【青森高校（SGH：スーパーグローバルハイスクール）】

11 月 11 日、１年生と留学生 (台湾・タイ・ベトナム・マレーシア) が、故郷や文化の相違点など様々なテーマについて、すべて英語で意見を述べ合う交流に協力しました。

【五所川原農林高校（グローバルGAP）】

12 月から１月にかけて、グローバル GAP を取得した高校産のりんごを中国で販売する生徒に留学生（中国）が中国語の発音指導や販売接客のアドバイスを行いました。

【弘前南高校（SSH：スーパーサイエンスハイスクール）】

２月９日、県内の科学資源について研究した１年生の英語による成果発表を留学生（タイ・ベトナム・マレーシア）が聞き、英語による質疑応答やアドバイスをしました。

行政との連携

【下北地域県民局】

10 月 22 日、留学生（台湾・ベトナム・マレーシア）が外国人旅行者に扮し、地元を英語でガイドする研修をしている方々と大間町を街歩きし、そのガイド力向上に協力しました。

【県内６市町村等】

１月 18 日から 22 日まで、県内６市町村等（八戸市・弘前市・青森市・おいらせ町・東北町・新郷村・みちのく銀行）主催のジャパン青森フードフェアがベトナム・ハノイで開催され、ベトナム同窓会（＝青森サポーターの会）メンバーが通訳やＰＲで協力しました。

保健師教育課程実習報告会を終えて

看護学部１期生　佐藤 麻穂

報告会は、個人・家族・集団・組織の支援実習での学びと、ご協力いただいた横内地域の方々や南地域包括支援センターの方々へ感謝の気持ちを伝えることを目的に開催しました。

実習では、横内地区を知るために実際に歩いて調べる地区踏査から始まり、住民の方への家庭訪問、健康チェックや口腔体操の健康教育を行い、地域包括支援センターで事例検討会を行いました。住民の方々は私たちを温かく迎え入れてくださり、地域の事を教えていただきました。実習を通して触れ合う機会が多く、県外出身の私にとって、新しい家族ができたような楽しい実習でした。

報告会では、住民の方から「会えなくなるのは寂しい」「口腔体操を続けている」などのお話をいただき、改めて地域の方々の温かさを感じました。これからも、暮らしている方々の地域自慢や思いを知ってもっと地域の魅力を発見したい、そして豊かな生活が送れるように横内地区を支えたいと感じた報告会でした。

まちなかキャンパスミニ公開講座

サテライトキャンパス「FRIENDLY WINDOW」において、看護学部のミニ公開講座を開催している。昨年は、家で看取るには（泉）、スキンケアとアロマ（村山）、家庭での救急法（木村）、認知症との付き合い方（山田）、心の健康を保つために（伊藤）など、身近な医療問題をテーマに取り上げた。

参加者は50～80代を中心に、高校生の参加もあった。定員 20 名の顔が見える環境で、健康問題について共に考えたり、アロマの香りを試したり、休憩時間の体操や替え歌遊びなど、和やかな学びの時間となった。講座と同時に「街中フレンドリー四季展」も開催し、ＮＨＫ文化センター青森教室の「初めての油絵」「くつろぎの油絵」の作品を展示した。参加者から、「会場が和む」、「癒される」などの声が聞かれ、好評であった。今年度も毎月１回を目途に計７回、土曜日、10：00 ～ 11：30 で開催している。是非覗いてみて欲しい。

（看護学部教授　山田 皓子）

飛翔式を終えて

看護学部２期生　長津 早紀

飛翔式に向けて私たちはむつ市下北自然の家で合宿を行いました。

先生たちの話を聞く機会があり、学生時代の話や実習の時の話、その分野をどうして勉強したいと思ったのかなど、普段交流のない先生からも様々な話を聞くことができてとても参考になりました。また、10 年後の自分について考える時間もあり、まだ想像できない人もいましたが、それぞれの将来について話し合いました。どちらも普段ではできない経験で、将来自分たちが看護師や保健師として働いていくために、何が必要なのかを見つけ出せたと感じました。

飛翔式では自分たちが決意したことを胸に、これから実習や勉強に励み、目標とする 10 年後の自分に近付けたらいいなと思いました。

インターナショナル ジョイント カンファレンス

学校法人青森田中学園創立 70 周年記念行事として、「日本とタイ国の高齢社会と看護」をテーマにインターナショナルジョイントカンファレンス（タイ看護協会・チュラロンコン大学・青森中央学院大学）を開催しました。タイ国から来校された８名の先生をはじめ、看護学部教職員、学生など約 250 名が参加し、高齢化社会と看護教育について、それぞれの立場から意見交換を行いました。

【発表テーマ】

・タイ国における高齢社会の現状
（タイ国看護協会会長　Tassana Boontong 氏）
・タイの高齢者におけるうつ病の現状
（チュラロンコン大学看護学部准教授
Pennapa Dangdomyouth 氏）
・日本における高齢社会と看護教育
（青森中央学院大学看護学部長　一戸 とも子）

青森中央短期大学

青森中央短期大学

食物栄養学科 入学者発表会

入学から約１週間後の４月 13 日、食物栄養学科１年生により、AO 入学者発表会と指定校推薦入学者発表会が行われました。これらの発表会は、AO 選抜合格者や指定校推薦合格者に課された入学前課題の成果を他の１年生の前で発表するというものです。AO 選抜で合格した学生は、３回実施されたスクーリングを通じて、小論文のテーマでもあった「マレーシア」の魅力を調べてレポートにまとめました。指定校推薦で合格した学生は、用意された課題図書から１冊を選び、その内容や特に各自が注目した点を紹介する文章にまとめました。発表を通じて、調べたことを上手に伝えるヒントが掴めたのではないでしょうか。また、発表後の質疑や意見交換などは、同級生のことを知る良い機会になりました。

授業で学びの実践を体験

栄養士をめざす食物栄養学科では、より強みを持った栄養士を育てるため、フードスペシャリスト、フードサイエンティストなどの課程も設置し、食に関する深い学びを進めている。今回、フードスペシャリストの科目である「フードコーディネート演習」を活用し、学生による商品やメニューの開発を行った。一つは本学のカフェテリアで提供するランチメニュー、二つ目はブルーベリー農園から委託されたスイーツのレシピ開発である。栄養価や季節、コストを考慮したランチメニューでは冬のメニューが採用され、実際に提供された。ブルーベリーを使ったスイーツでは、色鮮やかで酸味さわやかな「ブルーベリーのギモーブ」のレシピ提供を行った。

自分達が考えたものが商品となり、評価を頂いたことは、学生達にとっても良い刺激となったようである。

オリジナル食育ソング＆ダンス完成！

プロのカメラマンの目線や指示に緊張しながらも、長時間にわたる撮影を経て、青森中央短期大学オリジナル食育ソング＆ダンス：レクチャー DVD《あさごはんブルース》が完成しました。朝ごはんに興味がわくような歌詞やメロディーに、学生たちが楽しいダンスを振り付けて踊っているレクチャー DVD、学生によるバンド伴奏 CD 付き。園や学校、施設のレクリーエーション等でも、子どもからシルバー世代の方まで、どなたでもいつでもどこでも食育活動が展開できます。この食育ソングをきっかけにして、今後は食栄と幼保両学科の学生により、地域にとって大切な未来を創る《人と食》をつなげる食育プロジェクトが始動します。DVD 販売・食育プロジェクトの詳しい情報については青森中央短期大学ホームページで随時情報を発信していく予定ですので乞うご期待!!

高校生対象公開講座「簡単・かわいいプチべこもち作り」

本講座は「キャンパスでつくろう！大学生とわいわい」と題し、高校生と大学生が楽しく交流しながら一緒にもの作りを行う内容となっています。３年目となる今回は下北地方の郷土料理である「べこもち」をアレンジしたプチべこもち作りを行いました。本来のべこもちはパーツを組み合わせて松や小菊など複雑な模様をかまぼこ型に成形していくため、とても難しく、技術も必要とします。そのため、今回は初心者でも簡単に作れるようアレンジした「スイカ」と「ハート」を作りました。パーツの組み立ては少し難しいようでしたが、大学生がしっかり指導してくれたおかげで皆さんとても上手にできていました。この講座で初めてべこもちを知った参加者もおり、若い世代に青森の食文化を伝承するよい機会になったのではないかとだったと思います。

ビオトープの活用

４月 27 日、ビオトープで附属第一幼稚園の子どもたちと一緒に活動を行いました。今回は、ビオトープ内で植物を使って遊んだり、生き物を観察したりしました。たんぽぽで花輪アートを作る子、池にいるメダカを一生懸命観察する子、元気に走り周り鬼ごっこをする子、桜の花をたくさん摘み私たちにプレゼントしてくれた子、みんなが思い思いに遊んでいました。サークルメンバーの学生も、子ども達の様子を見ながら声がけをし、一緒に鬼ごっこをしたり、生き物についてわかりやすく説明したりしていました。

ビオトープでは、子ども達とビオトープで遊びながら、生き物の大切さや自然を使った遊びなど地域の自然や生態系について学ぶことができます。子ども達が地域に生息している生き物や植物に興味を持ってもらえるように活動しています。

（幼児保育学科２年
須藤 李奈）

Instagram の運用スタート

青森中央短期大学の Instagram アカウント（@aomori_chutan）を開設しました。このアカウントでは、短大の教員が撮影する「学生の日常」をみなさまに発信していきます。現在はオープンキャンパスの様子のほか、サークルや課外活動、実習系の授業の様子などを写真でお伝えしています。これまでも短大の Web サイトやパンフレット等で学校や学生の情報を発信していましたが、それらとは一味違った、授業や行事以外での様子を見ていただきたいです。学生の日常をより身近に感じられる Instagram、これからよろしくお願い致します。

「@aomori_chutan」
で検索！

ねぶた祭りへ向けて

今年度も、８月に開催される「ねぶた祭」へ向け、学生による笛、鉦、太鼓の練習がスタートしました。学生の中には囃子の経験者も数名おり、自ら進んで他の学生へ教え合うといった頼もしい様子も見られました。また昨年より、踊りを担当する学生へは衣装の着付けや跳ね方の指導も加わり、卒業後も様々な場面で役に立つ充実した内容となっています。当日は天候に恵まれ、事故なく楽しい祭りになるよう願うばかりです。

中短♪音れくサークル

私達は、音楽レクリエーションの研究と外部活動を目的としたサークルを立ち上げました。主にグループホームなどの高齢者福祉施設や地域の公民館などで、依頼に応じて２か月に１回のペースで活動中です。昔ながらの歌をピアノ伴奏に合わせて一緒に歌ったり、音やリズムを用いたゲームで、顔・手・足・体全体を使った簡単な体操をするなど、認知症予防や症状の緩和に繋がる内容をメンバーで考え、提供しています。幼児保育学科で培ったレクリエーション技術と、専攻科で現在勉強中の介護の知識や高齢者の方に対する関わり方を活かしながら、顧問の木村貴子先生と楽しくサークル活動を行っています。

（専攻科福祉専攻
花谷 莉瑚）

附属第一・第二・第三幼稚園 / 中央文化・浦町保育園

教　育　方　針

ー健康で明るく心豊かな子どもー

●友達と仲良く遊ぶ。　●よく見、よく聞き、よく考える。
●思ったことははっきり話す。　●自分のことは自分でやる。

認定こども園 附属第一幼稚園

〈みどりの幼年団街頭募金〉
「募金よろしくお願いします！」

〈こいのぼり制作〉
お空で気持ちよく泳いでるよ☆

〈ビオトープでバーベキューごっこ♪〉
焼き肉ジュージューおいしそう。

認定こども園 附属第二幼稚園

〈誕生会〉　誕生会ではお友だちもケーキを「フーーッ」。おめでとう!!

〈運動会〉　青い空にはためく万国旗の下。かっこいい年長さんのゲート「ルパン三世」です。

〈水遊び保育〉　すっかりプールが大好きになりました。顔に水がかかってもへいき!!だよ。

認定こども 園附属第三幼稚園

〈入園式〉　ちょっとドキドキ！

〈おいもを植えたよ〉　手がこんなにまっ黒け…

〈保育参観〉
メロディオンで作曲中のはくちょう組

幼保連携型認定こども園 浦町保育園・中央文化保育園

〈サンドームでの運動会〉
「ハンバーガーを作ろう」おいしいハンバーガーが出来上がり、一生懸命走ってゴールしました。

〈三思園慰問〉「どっこいしょ！」の元気いっぱいのかけ声に、三思園の皆さんからたくさんの拍手をいただきました。

〈合同七夕会〉　♪ささのはさ～らさら～♪みんなの願いがお星さまに届きますように！！

先生達活躍しています　第 16 回

子どもの成長と自分の成長

認定こども園 附属第二幼稚園
石﨑 麻里先生

附属第二幼稚園に勤めて３年目となりました。素直で元気いっぱいの可愛い子どもたちと楽しく毎日を過ごしています。

今年は２歳児の子どもたちと一緒に過ごすこととなり、成長に驚かされながらも、子どもたちに負けないよう成長出来る１年にしたいと思います。だんだんと出来ることが増えていくお友だち！今が一番吸収し、成長していく大切な時期なので、指の発達のためごっこ遊びで洗濯ばさみ同士をくっつけたり、穴の開いた紙に紐を通したり、ピアノに合わせて走ったり、止まったりと足をいーっぱい使ったり、外へ行き“チューリップの歌”をうたいながらチューリップをさがしたり、生き物を見つけたりと、できるだけたくさんの五感を使った体験・経験が出来るよう、楽しい思い出と成長の１年となるようにしていきたいです。

子どもたちの笑顔のために

幼保連携型認定こども園 浦町保育園
工藤 佳誉子先生

私の幼い頃からの夢は「保育園・幼稚園の先生」でした。短大卒業後、附属第一幼稚園に勤務し、市内の保育園に勤務したこともあります。現在結婚し、出産し、環境が変わっても保育教諭として働けていることを、嬉しく思います。浦町保育園に勤務して、９年目になります。先生方との人間関係を充実させ、より良い保育に繋がることを実感します。認定こども園となり、幼稚園での経験を活かし日々子どもたちが「今日も楽しかった」と思えるよう努めています。

私自身、小学生の子を持つ２児の母でもあります。子育ての経験を活かし、働く保護者に共感しながら、子どもたちの成長に携わっています。「先生大好き」「先生ありがとう」の言葉に励まされます。これからも子どもたちの笑顔に繋がる保育を展開させ、私自身も保育教諭としてスキルアップしていきたいと思います。

安全でおいしい給食をめざして

幼保連携型認定こども園 中央文化保育園
京野 七瀬先生

保育園の給食室は子どもたちが遊ぶプレイルームの隣にあり、大きな窓から給食室の様子を自由に見ることができます。毎日かわるがわる一生懸命中を覗き込み「給食さん！今日の給食はなぁに？」「いい匂いがするね！」など声をかけてくれます。窓の外に並ぶ子ども達の可愛らしい笑顔に心が温かくなり、いつも励まされます。また給食室と子ども達との距離が近い事で、食について関心をもってくれているように感じます。

学生時代に大学の先生方に教わった事が、今実際に現場で調理してみて改めて思い出され、本当の意味で理解できたように思います。これから季節に合わせた献立作りや調理方法、わかりやすい食育の指導方法などをもっともっと勉強し、知識を深め、技術を高めていきたいと思っています。今後も子ども達が『食』を楽しみながら、健康ですくすくと成長できるような安全でおいしい給食づくりを目指し、また私自身も園の先生方にご指導をいただきながら、子どもたちと一緒に成長していきたいと思います。

読み聞かせたい一冊の絵本

認定こども園 附属第三幼稚園　山崎 晴香 先生

『おやさい、おやさい』

石津ちひろ文、山村浩二絵　（福音館書店 ,2009）

この絵本を簡単に説明すると、たくさんのお野菜に手・足・目・口がつき、マラソン大会に参加するというお話になっています。かわいいお顔のお野菜が大きく描かれており、文章は短めでとてもわかりやすくなっています。例えば、「かぼちゃの　ぼっちゃん　かわに　ぼっちゃん」というように、似たような語彙が並べられ、耳にすーっと入ってきます。子どもたちにとっては、お野菜の名前を知ることができ、お野菜に興味を持つこともできます。また、短い文章なので、保護者と子どもで繰り返し読んでみたりと言葉遊びもできます。何度も楽しめるお話となっているので、オススメです。

青森中央経理専門学校・青森中央文化専門学校

ユニバーサルファッションショー

１月 28 日（土）アウガ５階 AV 多機能ホールにおいて、青森市民活動企画展にあおもりファッション協会の一員として、ユニバーサルファッションショーに参加した。授業の中で誰にでも優しい服作りのユニバーサルデザインを学習、特別養護老人ホーム三思園や障害福祉サービス事務所森の工房ふれ・あいを訪問。車いすや障がいで不具合を感じている事や好みの聞き取りをし、不便を解消するデザインを提案。制作した衣裳を着て笑顔いっぱいのモデルと学生が一緒にステージで発表。客席からの温かい拍手は、ステージと一体となりショーを盛り上げた。

文化専門学校研修旅行

青森中央文化専門学校では、10 月 19 日～ 21 日の日程で、研修旅行を実施した。今年はパターン・縫製企業の「ユー・エス・ピー アソシエーション」、アパレル展示会の「PR01. TRADE SHOW」、さらに本学園創立 70 周年記念行事にもご協力いただいた北澤武志氏によるファッションブランド「DRESSEDUNDRESSED」の SPRING SUMMER 2017 COLLETION を見学。通常は立ち入り出来ない各研修先に、参加した学生は目を輝かせ、大きな経験を得ました。また、多くの生地問屋が並ぶ日暮里繊維街で、今後使用する服地や副資材も購入。自分の夢や目標に大きく近づいた研修旅行となった。

Bunka Fashion Live に携わって ～学生レポート～

私たちは受付を担当しました。１回目の公演のとき、パンフレットやアンケート用紙配りで受付の人数が足りず対応が遅れてしまいました。その反省点として、開場前には最低でも受付には用紙を配る人が２人、人数を記録する人が１人、案内人が２人の計５人が必要だと思い、２回目の公演のときに実行したところ対応も早くなり、終了時にはペンとアンケート用紙の回収係を２人ずつ対応したところ物事がスムーズに進み、最後までやり遂げることができました。この活動を通じて効率性を学ぶ事ができたので、今後に役立てたいです。

（豊嶋 未沙樹、米田 裕奈）

経理専門学校研修旅行

10 月２日～４日の日程で東京へ研修旅行に行ってきました。各コース共通の研修とコースごとの研修を実施し、共通の研修では東京証券取引所とフジテレビに行きました。東京証券取引所では取引所内の見学や株の模擬取引を体験し、フジテレビでは野辺地町出身でニュース番組の制作統括者である角谷公英さんから「成功するためにはドンドン失敗しましょう」という演題で講話していただきました。コースごとの研修でも各コースで勉強している内容に沿った研修先で学生たちは様々なことを吸収し、今後にもつながる研修旅行となりました。

経理発信情報 Vol.19 ～ＦＰフォーラム in 青森～

11 月 19 日、経理事務コースの学生たちが日本 FP 協会青森支部主催の FP フォーラム in 青森に参加しました。当日は講演会聴講や作品展示、運営補助に携わり、運営補助では受付や来場者の誘導、講演会終了後のアンケート回収等を行いました。また、講演会聴講では「賢い家計のポイントカード & クレジットカード」の講演を聞いた学生から、「講演を聞いてクレジットカードの使い方に気を付けたいと思った」などの感想が聞かれました。外部でのイベントに携わることが少ないため、学生たちにとっては良い経験になったのではないでしょうか。

おススメ図書 vol.17

青森中央文化専門学校　**齋藤 明日香 先生**

『モードデザイナーの家』

イヴァン・テレスチェンコ著・神奈川夏子訳（エクスナレジ,2015）

この本は、著者が 20 年間にわたり撮り続けてきたモード界の巨星たちの自邸が紹介されている。ココ・シャネルが「シャネル・ファッションと言われるのは嫌い。シャネル、とは何よりもまずスタイルのことを指すのよ」。と箴言しているとおり、どのデザイナーの自邸からも、元々持っているスタイルが感じられ、ファッションはその一部として提案しているに過ぎないのではないかと思わされる。

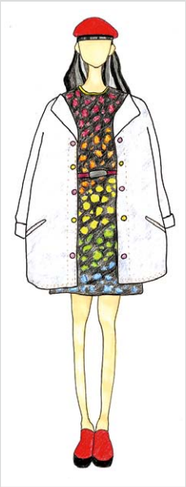
中でも驚いたのは、クリスチャン・ルブタンがエジプトにも家を持っており、スタッフとともに合間にヨガをしながら、商品開発をしているということ。あの華やかでヒールの高い靴が、砂漠のど真ん中でデザインされているなど、誰が想像しようか。

ファッションビジネスが、顧客のライフスタイルをイメージして提案するものであるとともに、デザイナー自身のスタイルを貫き、そこからインスピレーションを得て生み出すものであるということを、改めて感じさせる１冊である。

ファッション通信　vol.17

～ Kitsch × Girly ～

2017SS は、“芸術気取りのまがいもの”を意味する「キッチュ」がキーワード。パンチのあるカラー、ピンクや赤などをはじめとする暖色系や、イエローやグリーンなどのトロピカルカラーを取り入れ、ガーリーでありつつも、80 年代のちょっとダサいオタク風ファッションが流行の兆し。アフリカン、ボタニカル、アニマルなどの柄や、ビッグシルエットを通り越した“エクストリームシルエット”という、やりすぎ感たっぷりなのが今年流です。ロゴＴやブリーチデニムなど、比較的取り入れやすいトレンドからチャレンジして、ド派手な春夏を過ごしましょう☆



（記事・デザイン画：文化編集部サークル）

卒業生ピックアップ No.29

青森中央経理専門学校　平成27年度卒業

株式会社日本レストランエンタプライズ 勤務

猪股 美沙子さん

私は現在、ＪＲ東日本新幹線のグランクラスアテンダントに配属されています。

お客様のお出迎え・お見送り、発着駅での挨拶、旅のひとときを楽しみ、ご満足頂けるよう、きめ細やかなサービスを心がけています。

研修や日々の乗務を通して、身だしなみや立ち振る舞い、言葉遣いやマナーを学ぶことができ、自分自身を成長させてくれる仕事だと思います。

グランクラスにお乗りになるお客様の目的は、ビジネスや旅行、大切な記念日など、シーンは異なりますが、快適に目的地に向かうことができるようお手伝いをする、という大切な使命を果たすため、毎回サービスの手順を考え組み立てていくことに、やりがいを感じています。

本校の先輩方も勤務しており、優しくも時に厳しい指導の下、毎日、笑顔で楽しく仕事をしています。

新教職員紹介

① 職位・氏名
② 出身
③ 担当
④ 抱負

青森中央学院大学

経営法学部

①専任講師　大池　森（おおいけ しん）
②青森県
③担当科目等　学術日本語Ⅰ、日本語Ⅲ（留学生対象）
④23年ぶりに青森に戻って参りました。留学生の日本語を担当します。どうぞよろしくお願いいたします。

①助教　庄子　元（しょうじ げん）
②宮城県
③地理学、調査と統計
④地域には社会問題を解決するための糸口がたくさん転がっています。地域から多くのことを学んでいきましょう！

青森中央短期大学

食物栄養学科

①助手　千葉 綾乃（ちば あやの）
②青森県
③栄養学系科目
④新しいスタートにわくわくしています。これまでの経験を生かすことができるように、精一杯頑張ります。よろしくお願いいたします。

専攻科福祉専攻

①助教　吉川 直人（よしかわ なおと）
②東京都
③介護過程　介護実習
④学生の皆さんが、介護福祉の仕事に誇りを持てるよう、共に学び合いたいと思います。

青森中央経理専門学校

①経理情報科教諭
猪股 俊秀（いのまた としひで）
②青森県
③情報処理分野
④情報処理分野を担当することにあたり、資格習得だけではなく、就職先や日常生活で応用できる知識を指導していきたいと思います。

認定こども園 青森中央短期大学附属幼稚園

認定こども園 青森中央短期大学附属第一幼稚園

①鈴木 真由（すずき まゆ）
②満３歳児さくら組
③青森県
④いつも笑顔で、子ども達が安心して過ごせるよう、一人一人に寄り添った保育をめざし一生懸命頑張ります。

①越田 千聖（こした ちさと）
②４歳児・たんぽぽ組
③青森県
④まだまだ未熟な部分が多いですが、先輩の先生方を見て学び、常に笑顔で明るい先生をめざし、精一杯頑張ります。

認定こども園 青森中央短期大学附属第二幼稚園

①小笠原 安紀子（おがさわら あきこ）
②青森県
③０歳児ぶどう組
④かわいい０歳児ちゃん達と、たくさんスキンシップをとりゆったりと安心してすごせるように工夫しながら頑張りたいと思います。

①二子 美保子（ふたこ みほこ）
②青森県
③３歳児さくらんぼ組
④これまで以上に子ども達の素敵な笑顔に溢れ、楽しく明るく過ごす事が出来る様にしていきます。

①青澤 奈那（あおさわ なな）
②秋田県
③３歳児さくらんぼ組
④子ども達に“毎日幼稚園に来たい！”と思ってもらえるよう、明るく元気に保育をしていきたいです。

①渋谷　英樹（しぶたに ひでき）
②青森県
③バス担当
④安全・安心な車両の運転を心がけます。心地よい園になるように施設管理をします。

認定こども園 青森中央短期大学附属第三幼稚園

①蒔苗 彩香（まかない あやか）
②青森県
③０歳児ひよこぐみ
④子どもたちの気持ちに寄り添い、一緒に成長していきたいです。楽しみながら元気いっぱい笑顔で頑張ります。

幼保連携型認定こども園 浦町保育園

①川内 壽子（かわうち ひさこ）
②青森県
③０歳児つぼみ組
④子どもの目線に立ち、明るく楽しい保育を心がけていきたいと思います。
笑顔で頑張ります。

①和嶋　千尋（わじま　ちひろ）
②青森県
③栄養士
④早く仕事に慣れ、食育を通して食べることの大切さを子どもたちに伝えていけるように精一杯頑張ります。

①福士 初美（ふくし はつみ）
②青森県
③０歳児つぼみ組
④毎日の笑顔を大切にし、子どもたちが楽しく安心して過ごせるように頑張ります。

①佐々木　楓（ささき かえで）
②青森県
③調理員
④子ども達が毎日の給食の時間を楽しみにできるようなおいしいごはんを提供できるようがんばります。

事務局

①瀬川 宏光（せがわ ひろみつ）
②秋田県
③秋田地区進学アドバイザー
④家庭的で連帯感がある青森田中学園の一員として勤務できることを大変うれしく思います。よろしくお願いいたします。

①向中野 光秀（むかいなかの みつひで）
②青森県
③Ｇ-コマース講師、キャリア支援兼地域連携アドバイザー
④“つなぐ”ことが大切な昨今、次代を担う学生や地域の未来へ、「不易流行」の伝道者？として頑張ります。白髭をよろしく。

①百井　淳平（ももい じゅんぺい）
②岩手県
③総務課（野球部コーチ）
④卒業生でもありますので母校発展のために頑張ります。よろしくお願いします。

①伊藤 奈穂子（いとう なほこ）
②群馬県
③学務課
④今まで大学の事務としての経験はありませんが、精いっぱい仕事していきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

①舘田 亜矢子（たてだ あやこ）
②北海道
③国際交流課
④青森中央学院大学の国際交流をますます発展させられるよう努めていきたいと思います。

①武藤　美冬（むとう　みふゆ）
②青森県
③国際交流課
④留学生が安心して大学生活を送れるよう、また海外留学をする日本人学生が安心して渡航できるよう全力でサポートしていきたいと思います。

①葛西 真樹（かさい まき）
②青森県
③研究支援・地域連携課　地域連携センター
④地域連携センターではCOC+事業を推進しています。地域で活躍する学生が笑顔になれるようなサポートが私の目標です。

①竹中 恵理（たけなか えり）
②青森県
③研究支援・地域連携課
④地域との連携や研究支援等に関して皆さんのお力になれるよう精一杯頑張ります。よろしくお願いいたします。

①工藤 三希子（くどう みきこ）
②青森県
③教育開発推進課
④講義や業務が快適に進められるよう、機器の管理や操作等のサポートをしていきたいと思います。

①蝦名 美由紀（えびな みゆき）
②青森県
③入試広報課
④まだまだ勉強不足な所も多く、ご迷惑おかけすることもあるかと思いますが、よろしくお願いいたします。

①原田 亜梨沙（はらだ ありさ）
②岩手県
③健康管理室　保健師
④皆様の病気や怪我を予防できるよう、今後も取り組んで参ります。

①千葉　邦夫（ちば　くにお）
②青森県
③会館主任（こぶし会館）
④会館生の皆さんの挨拶と笑顔にいつも元気をもらっています。会館生が安心して生活ができるよう、寮の管理に注意を払っていきます。

学園共通

弘前大学の学生と共同制作した 青森県「だし活」CM コンテスト史上初ダブル受賞

青森県総合販売戦略課、よしもと住みます芸人・キューティーブロンズ、青森県内の若手クリエイター、弘前大学と青森中央学院大学の学生が共同制作した「だし活」CM が、第９回沖縄国際映画祭において、全国部門グランプリ、よしもと 47 シュフラン部門をダブル受賞した。史上初となるダブル受賞の快挙を受け、経営法学部学生をはじめとする制作メンバーと、「だし活」マーケティング等研究活動を行った経営法学部４年の久留島麻央さん、櫻田史南さんが、三村知事を表敬訪問した。

この CM では、経営法学部３年の高田春菜さん考案のキャッチコピー「恋はかけひき、ダシもかけひき」が採用されている。訪問では、「だし」のうま味で、おいしく減塩を推進する「だし活」を、若い世代にもっと広めていきたいという考案の意図を説明する場面も見られた。

青森市営バス路線のグルメマップ『バスぐる』作製

昨年度、経営法学部の伊藤晧平君、高田茉奈さん、田川有紗さんの３名は、青森市企業局交通部でのインターンシップで「大学生が日常的に青森市営バスを使いたくなるには」という課題に挑戦した。３名は、現地調査やヒアリングを行って様々なアイデアを出し合い、「青森市営バスを使ったグルメ巡り」をテーマとして、大学と青森駅を結ぶバス路線沿いのグルメマップ「バスぐる」を制作した。

「バスぐる」ではラーメン店やスイーツ店の紹介や、協力店では割引等の特典が受けられるのが特徴である。大学前のバス停や青森駅からのバス時刻表も掲載し、利便性も高めた。これまで学内行事での配付のほか、新聞等での紹介がきっかけに市民のみならず県外在住の青森市出身者からも問い合わせが相次いでおり、好評を博している。

小野寺晃彦青森市長特別公開講演会開催

７月 19 日、小野寺晃彦青森市長をお招きし「青森市で学ぶ大学生の皆さんへ」と題した講演会を開催し、学生や市民、合わせて約 350 人の方が参加しました。

小野寺市長は昨年７月に市長選に出馬表明してからの１年間を振り返った後、青森市が抱える真の「緊急課題」は人口減少問題とした上で、「しごと創り」に力を入れているとお話しされました。

なかでも、県外から観光客を呼び込む広域観光の推進では、英語、中国語、韓国語など、外国語を習得する必要性を痛感したことを話されました。

さらに自身の大学時代、部活に熱中しすぎ勉強や就職活動をないがしろにし、就職留年した「しくじり」体験を例に挙げ、学生たちに「社会の一員となることを忘れずに学ぼう」というメッセージを送りました。

更に、青森市を「挑戦する街」にしたいという思いを参加者に呼び掛けました。

青森商業高校との高大連携プログラム実施

青森中央学院大学が取組んでいる国際産直プロジェクトは、タイからマハチャノマンゴーを直輸入し、お客様へとお届けする中で事業に必要な全てを学生が実践する事で、職業観の涵養を目的として実施しています。

そのプロジェクトに、今回初めて青森商業高校商業科３年生 11 名が参加しました。高校生の皆さんは５月上旬から本学へ来校し、販売目標計画の立て方や販売準備、販売実践を学び、６月 10・11 日の２日間にわたり、青森県観光物産館アスパムで販売業務を行いました。

今回のプロジェクトに参加した高校生の皆さんは、大学生や市民の方とのコミュニケーションをとり、アルバイトでは得られない就業観に触れることができたと思います。

翔麗祭開催！

青森田中学園学園祭「翔麗祭」を開催いたします。皆様のご来場、お待ちしております。

テーマ：一祭学彩～麗しく翔べ～

日時

９月16日(土)・17日(日) 10:00～17:30

イベント案内

- ●よしもとお笑いライブ【17日 13:15～】
- ● RINGO MUSIC LIVE in 翔麗祭【16日 13:30～】
- ●ミュージカル「最後の真珠」
- ●ファッションショー「BLAST」
- ●軽音楽部 LIVE
- ●アンサンブルサークル 2017
- ●アカペラ LIVE 2017 in 翔麗祭
- ● GROOVE DANCE SHOW CASE
- ●留学生日本語スピーチコンテスト【16日 13:00～】
- ●学部学科、ゼミ、サークル展示
- ●カラオケ大会【16日 16:00～】
- ●大ビンゴ大会【17日 17:00～】
- ●園児作品「仲良しの色彩」展
- ●横内まちづくり協議会「健康チェックコーナー」
- ●模擬店 …他

開催行事案内

青森中央短期大学

●学びの講座 会場：青森中央短期大学

日　程		内　容	参加費
9/22(金)・9/29(金)・10/13(金) 10/27(金)・11/10(金)	18:30～20:00	デッサン教室	材料費（初回500円）

●食物栄養学科・幼児保育学科コラボ講座 会場：青森中央短期大学

日　程		内　容	参加費
10/21(土)	9:30～10:45	生活習慣病の予防について	無料
	11:00～12:30	お家でできる体力づくり	

●親子クッキング 会場：青森中央短期大学

日　程		内　容	参加費
2/24(土)	10:00～12:30	桃の節句のごちそうを作ろう	１組 800円

青森中央経理専門学校

●公開講座

日　程		内　容	対　象
11/4(土)	時間未定	学生によるパソコン教室　年賀状作成	一般

青森中央文化専門学校

●公開講座（FRIENDLY WINDOW） 会場：FRIENDLY WINDOW

日　程		内　容	参加費
9/25(月)・10/2(月)	13:00～15:00	ビーズアクセサリー講座～オリジナルブローチ～	3,000円

「こぶしの花」掲載写真募集！

こぶしの花編集委員会では、「こぶしの花」（表紙）に掲載することを目的に、写真作品を募集しています。現在、11月発行予定の99号表紙掲載写真を募集中です。学園内の風景を題材に、皆さんの力作をお待ちしています。

■99号応募締め切り：10月13日
■応募先メールアドレス：kobushiphoto@aomoricgu.ac.jp
※応募の際、メールの表題には「こぶしの花写真応募」、メール本文には「学部学科・学籍番号・氏名・（電話番号）」を記入してください。
※本応募は、投稿の資格は青森田中学園在学生が撮影した未発表作品に限ります。
※本応募に関するご質問等は、こぶしの花編集委員会までお問合せ下さい。
お問合せ先：kobushiphoto@aomoricgu.ac.jp

携帯から応募の際は
コチラをご利用下さい

青森田中学園報「こぶしの花」第98号
発行日：2017. 8. 31
発　行：学校法人　青森田中学園
〒030-0132　青森市横内字神田12
ＴＥＬ：017-728-0131
ＦＡＸ：017-738-8333
http://www.aomoricgu.ac.jp
http://www.chutan.ac.jp

「こぶしの花」編集委員

編集長　加藤　澄
杉田由佳理　外　千夏
本間　維　前田　美樹
齋藤明日香　坪谷　輝子
八木橋ひろみ　岩葉　悦子
高橋　晴美　中田　尋美